

第31期目録委員会記録 No.6

第6回委員会

日時：2008年1月26日（土）14時15分～17時15分

場所：日本図書館協会5階会議室

出席：中井委員長，木下，平田，古川，横山，渡邊

<事務局>磯部

[配付資料]

1. ISBD統合版への作成例示（28ページ-A4，各委員）
2. *RDA Scope and Structure* [第3版]（2007.12.15）の要約（7ページ-A4，古川委員）
3. AACR2改訂事業の現段階(ver.3)（8ページ-A4，古川委員）
4. RDAセクション2-4、9草案（296ページ-A4，事務局コピー）
5. 「LC書誌コントロールの将来 WG最終報告」報告部分の変更について（6ページ-A4，平田委員）
6. *On the Record*（LCの書誌コントロールの将来に関するワーキング・グループ報告）（44ページ-A4，事務局コピー）
7. FRBR Review Groupの会合(2007.8.21)記録（5ページ-A4，事務局コピー）
8. 第31期目録委員会記録 No.4（2ページ-A4，事務局）
9. 第31期目録委員会記録 No.5 案（2ページ-A4，事務局）

[検討事項]

1. ISBD統合版の例示の作成について

各委員から提出された例示案を逐次吟味し、そのなかで主として次の方針を申し合わせた。今後は国会図書館の委員が現品を調査のうえ完成させて提出する。

- ・色彩は「カラー」と記録する。
- ・GMDがISBDで細分されていても、NCRの区分と名称に従う。NCRに存在しない種別については、新たな名称を与える。
- ・pの後にはピリオドを打ち、cmの後には打たない。

2. RDAの新しい構成と草案について

古川委員より資料2と3に基づき説明があり、次のように意見交換を行った。

- ・タイトル標目の統一標目化、関連機能の重視、役割表示の強化が注目される。
- ・構成が目録作業の過程と乖離していて、使い易さの点が危惧される。
- ・データベース設計やメタデータの関係者が、この構成をどのように見るかが問題である。

- ・FRBRに依拠した部分とFRADに依拠した部分の切り分けが明らかでない。
- ・LCのワーキング・グループが改訂作業の中止を勧告したため、今後の見通しは不透明となった。

次回以降、次のような分担で通読することとする（スケジュールは記録作成時に補記）。

2月－第5-6章（古川）、3月－第8-9章（渡邊）、4月－第10章（稲濱）、
5月－第11章（横山）、6月－第16章（木下）、7月－第29-32章（平田）

3. LCの「書誌コントロールの将来に関するワーキング・グループ」の最終報告について平田委員より資料5に基づき説明があり、次のように意見交換を行った。

- ・中間報告と基本的には大きく変わっていない
- ・目録規則の改訂作業の中止を勧告する部分が後に退いたが、表現は厳しくなった。
- ・以前ほかの国立図書館とともにRDAの2009年内の適用を発表したLCの立場は、微妙となった。
- ・タイトルが一般的で、何と訳すかなど戸惑いを覚える。

次回以降の委員会の予定

2月23日（土）

3月22日（土）

以上